



文化庁委託事業「2019年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

新国立劇場 演劇研修所 第13期修了公演

『社会の柱』

作：ヘンリック・イブセン 翻訳：アンネ・ランデ・ペータス

演出：宮田慶子 出演：新国立劇場 演劇研修所研修生 ほか

2020年2月21日(金)～26日(水)

新国立劇場 小劇場

近代劇の父イブセンの隠れた名作を新訳上演！

演劇研修所長の宮田慶子の演出でお贈りします！

2017年入所の第13期生が、朗読劇『ひめゆり』、試演会『会議』の公演を経て、いよいよ新国立劇場小劇場での最終公演に臨みます。

作品は、近代劇の父ヘンリック・イブセン作『社会の柱』。イブセンによる写実主義的社会劇の初期の戯曲です。1877年、デンマークでの初演ののち、各国で成功を収め、1880年のロンドン公演で、初めて英語上演されたイブセン戯曲となりました。

近年では2005年にも英ナショナル・シアターが上演しています。資本主義社会と人間の尊厳、現代でも普遍的なこのテーマを鋭く描き出す、隠れた名作です。新国立劇場でもイブセン作品2作（『ヘッダ・ガープレル』『海の夫人』）を手がけた、宮田慶子演劇研修所長の演出で、新訳にてお贈りいたします。

研修生活3年間の集大成となる13期生の修了公演にご期待ください。



2019年8月 第13期生朗読劇『ひめゆり』より



2019年10月 第13期生試演会『会議』より

■写真・資料のご請求、ご取材のお問い合わせ

新国立劇場 研修主管 広報担当 田村昌子

Tel: 03-5352-5770 / Fax: 03-5352-5776 Email: press@nntt.jac.go.jp

■新国立劇場 演劇研修所ウェブサイト

<https://www.nntt.jac.go.jp/play/training/>

■新国立劇場 演劇研修所 Facebook 最新情報はこちら！

<https://www.facebook.com/nnt.dramastudio.tokyo/>

■新国立劇場 演劇研修所 twitter 最新情報はこちら！

https://twitter.com/nnt_dramastudio/

公演概要

作 : ヘンリック・イプセン
 翻 訳 : アンネ・ランデ・ペータス
 演 出 : 宮田慶子 (演劇研修所長)

美 術 : 池田ともゆき
 明 : 中川隆一
 音 響 : 信澤祐介
 衣 裳 : 西原梨恵

演 出 助 手 : 高嶋柚衣 (11期修了)
 翻 訳 協 力 : 今村麻子
 舞 台 監 督 : 澁谷壽久

出 演 : 新国立劇場演劇研修所 第13期生
 今井仁美 大久保眞希 島田恵莉 松内慶乃 松村こりさ ユーリック永扇
 河波哲平 河野賢治 宮崎隼人
 古川龍太 (1期修了) 原 一登 (4期修了) 野坂 弘 (7期修了) 鈴木麻美 (8期修了)
 高橋美帆 (9期修了) 小比類巻諒介 (11期修了) 椎名一浩 (11期修了)

後 援 : ノルウェー大使館
 演劇研修所長 : 宮田慶子
 制 作 : 新国立劇場
 主 催 : 文化庁、新国立劇場

会 場 : 新国立劇場 小劇場

日 程 : 2020年 2月 21日 (金) 18:30
 22日 (土) 14:00
 23日 (日・祝) 14:00
 24日 (月・休) 14:00
 25日 (火) 18:30
 26日 (水) 14:00

※開場は開演の30分前です。

料金 (税込) : A 席 3,300円 / B 席 2,750円 / 学生券 1,000円 / Z 席 1,650円

※枚数制限はありません。就学前のお子様のご同伴・ご入場はご遠慮ください。

※23日(日・祝)14:00のみ、託児所のご利用が可能です。

※会員割引を含め、各種割引はございません。

※車椅子ご利用のお客様はボックスオフィスまでお問い合わせください。

※学生券はボックスオフィスの窓口・電話・公演HPにて受け付けます。

お引き取りの際には、学生証または年齢を確認できるものが必要です。

チケッ ト : 新国立劇場ボックスオフィス / Web ボックスオフィス

03 - 5352 - 9999 / <http://pia.jp/nntt/>

チケットぴあ【Pコード : 498-714】

0570 - 02 - 9999 / <http://pia.jp/t>

前 売 : アトレ会員先行発売期間 2019年12月4日(水) 10:00 ~ 12月10日(火)
 一般発売日 2019年12月12日(木) 10:00 ~

ものがたり・作品について

ノルウェーの小さな港町。有力な実業家で領事のカルステン・ベルニックは、妻のベッティー、13歳になる息子のオーラフとともに品行方正な生活を送り、「社会の柱」として人々から尊敬を集めていた。新たに、町の商人たちと鉄道敷設事業計画を進めているさなか、ベッティーの弟ヨーハンとその異父姉のローナが帰国する。2人は15年前のある事件で町を去り、アメリカに渡っていた。若き日の過ちが再びカルステンの前に立ちはだかり、歯車は段々と狂いだす。カルステンの過去の過ちとは……そして、鉄道事業に隠された秘密とは……。

【参考】

【主な上演歴】

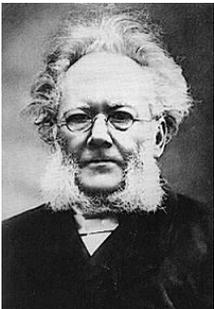
初演 1877年11月 オーデンス劇場、デンマーク王立劇場
 ノルウェー初演 1877年11月 デン国立劇場
 ロンドン初演 1880年12月 ガイエティ劇場
 日本初演（翻案3幕上演）1914年1月 有楽座 伊庭 孝・改作 新劇社

ロンドン 2005年11月 ロイヤル・ナショナル・シアター

【出版掲載】

『イブセン戯曲全集：原典による 第3巻』 1989年10月初版 未来社 原千代海翻訳
 『イブセン全集 第5巻』 1930年6月初版 改造社 大關柊郎翻訳（ドイツ語より）
 『ホトトギス』 明治43年4月、6月号 ホトトギス社 橋本青雨翻訳（ドイツ語より）

スタッフ



作：ヘンリック・イブセン (Henrik Johan IBSEN)

劇作家 (1828－1906)

「近代演劇の父」と呼ばれ、シェイクスピア以降最も盛んに上演されている劇作家。1828年ノルウェー生まれ。50年、処女戯曲『カテリーナ』を執筆。浪漫主義期、思想劇をへて、近代リアリズム劇を確立。その後、象徴主義的な傾向の作品を描いた。主な戯曲として『ペール・ギュント』『人形の家』『幽霊』『人民の敵』『野鴨』『海の夫人』『ヘッダ・ガーブレル』『棟梁ソルネス』『小さなエイヨルフ』など。生涯に戯曲26作および詩集1作を発表。1906年没、国葬。



翻訳：アンネ・ランデ・ペータス (Anne Lande PETERS)

演劇研究者・翻訳家。ノルウェー人。神戸生まれ。宣教師である親とともにノルウェーと日本の間を行き来して育つ。早稲田大学で落語を研究。翻訳には、ヨン・フォッセ『僕は風』日本語訳ほか、新国立劇場ではイブセン『ヘッダ・ガーブレル』『海の夫人』、ヨン・フォッセ『スザンナ』（すべて長島 確との共訳）を手がけている。ノルウェー語訳には三島由紀夫『近代能楽集』、岡田利規『三月の5日間』などがある。現在、オスロ大学イブセン研究センター主催〈イブセン・イン・トランスレーション〉の一員として、イブセン現代劇12作を日本語に翻訳中。夫と子供3人と東京在住。



演出：宮田慶子 (みやた・けいこ)

劇団青年座所属。翻訳劇、創作劇、ミュージカル、オペラと多方面にわたる作品を手がけ、演劇教育や日本各地での演劇振興・交流にも積極的に取り組む。日本演出者協会副理事長、(公社)日本劇団協議会常務理事。2010年～18年新国立劇場演劇芸術監督をつとめ、『ヘッダ・ガーブレル』『わが町』『おどくみ』『朱雀家の滅亡』『負傷者16人－SIXTEEN WOUNDED－』『るつぼ』『長い墓標の列』『つく、きえる』『永遠の一瞬－Time Stands Still－』『三文オペラ』『海の夫人』『パッション』『月・こうこう、風・そうそう』『君が人生の時』『プライムたちの夜』『消えていくなら朝』、また、オペラ『沈黙』（12・15年）を演出。2016年4月より新国立劇場演劇研修所長。所長としての演出作品に『MOTHER－君わらひたまふことなかれ』『美しい日々』『るつぼ』。

出演者

演劇研修所第13期生

<p>今井仁美 (いまい・ひとみ)</p>  <p>1990年生・埼玉県出身</p>	<p>大久保真希 (おおくぼ・まき)</p>  <p>1996年生・大阪府出身</p>	<p>島田恵莉 (しまだ・えり)</p>  <p>1994年生・愛媛県出身</p>	<p>松内慶乃 (まつうち・よしの)</p>  <p>1991年生・福島県出身</p>	<p>松村こりさ (まつむら・こりさ)</p>  <p>1996年生・愛媛県出身</p>
<p>ユースリック永扇 (ゆーりっく・えいみ)</p>  <p>1998年生・静岡県出身</p>	<p>河波哲平 (かわなみ・てっぺい)</p>  <p>1994年生・京都府出身</p>	<p>河野賢治 (こうの・けんじ)</p>  <p>1996年生・兵庫県出身</p>	<p>宮崎隼人 (みやざき・はやと)</p>  <p>1988年生・岩手県出身</p>	

演劇研修所修了生

<p>古川龍太 (ふるかわ・りょうた)</p>  <p>1期修了</p>	<p>原一登 (はら・かずのり)</p>  <p>4期修了</p>	<p>野坂弘 (のさか・ひろむ)</p>  <p>7期修了</p>	<p>鈴木麻美 (すずき・あさみ)</p>  <p>8期修了</p>	<p>高橋美帆 (たかはし・みほ)</p>  <p>9期修了</p>
<p>小比類巻諒介 (こひるいまき・りょうすけ)</p>  <p>11期修了</p>	<p>椎名一浩 (しいな・かずひろ)</p>  <p>11期修了</p>			

新国立劇場 演劇研修所について

新国立劇場演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強い身体を備えた次世代の演劇を担う舞台俳優の育成を目指して、2005年に設立されました。

研修期間は3年間で、原則として週5日間、午前10時30分～午後6時のレッスンを、1年を通して行っています。

1・2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣によるシーンスタディを行い、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行います。

修了生は、新国立劇場公演のみならず、さまざまなプロデュース公演に出演するなど、活躍の場を広げています。

【今後の主な修了生出演作品】

NODA・MAP 第23回公演 『Q : A Night At The Kabuki』 inspired by A Night At The Opera
 (作・演出：野田秀樹、音楽：QUEEN、2019年10-12月)
 八幡みゆき (第9期生)

ホリプロ『カリギュラ』

(作：アルベール・カミュ、翻訳：岩切正一郎、演出：栗山民也、2019年11-12月)
 西原やすあき (第2期生)、原 一登 (第4期生)、野坂 弘 (第7期生)、峰崎亮介 (第7期生)、
 坂川慶成 (第8期生)、川澄透子 (第11期生)、小比類巻諒介 (第11期生)

KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース『アルトゥロ・ウイの興隆』

(作：ベルトルト・ブレヒト、翻訳：酒寄進一、演出：白井 晃、2020年1-2月)
 チョウ ヨンホ (第4期生)

世田谷パブリックシアター『メアリ・スチュアート』

(作：フリードリヒ・シラー、上演台本：スティーブン・スペンダー、翻訳：安西徹雄、演出：森新太郎、2020年1-2月)
 玲央バルトナー (第11期生)

PARCO PRODUCE 2020『FORTUNE フォーチュン』

(作：サイモン・ステューヴンス、翻訳：広田敦郎、演出：シヨン・ホームズ、2020年1-3月)
 内田 亜希子 (第1期生)

PARCO 劇場オープニング・シリーズ 第1弾『ピサロ』

(作：ピーター・シェーファー、翻訳：伊丹十三、演出：ウィル・タケット、2020年3-4月)
 薄平 広樹 (第8期生)、中西 良介 (第10期生)

新国立劇場 2019/2020 シーズン 演劇『願いがかなうぐつぐつカクテル』

(原作・上演台本：ミヒヤエル・エンデ、翻訳：高橋文子、演出：小山ゆうな、2020年7月)
 林田 航平 (第5期生)

(ほか、テレビ・映画・CMなど)

本公演に出演する第13期生は、2016年4月に入所。3年次である今年度は、全日本空輸株式会社の支援を受け5月に沖縄で4泊5日の国内研修を行い、8月に朗読劇『ひめゆり』を上演。10月に試演会『会議』、2020年2月に修了公演『社会の柱』に臨み、3月に修了いたします。



2019年10月 第13期生試演会『会議』稽古より



2019年3月 第13期生シーンスタディ『三文オペラ』発表授業